夕刊
五月三十一日發行
定價 一ヶ月金五拾錢（郵税共）
廣告料 一段金六拾錢 五號十二字詰一行一段金九拾錢
編輯兼發行人 柏木哲 田町十六番地
印刷所 磐城新聞社
磐城郡平町大字平字田町十六番地
電話 平一〇八番 東京市麹町区内幸町一丁目 電話 (日比谷)一五六五番
(日曜祭日翌日休刊)

南窓漫筆（下）

徳田生

香筒の香取りいだし焚かんとする青磁香爐にうつる窓明り、栗谷の興禪寺に行つた時の事である。寺の庭畳に、圖らずも例の木の花から見上げる晩春の山の木々は、それぞれ新緑に萠ゆる中に、ふと異つた色即既に『ザイフリボク』又『ジデザクラ』と教へて發見した。恰度枇杷の新芽のやうに白味を帶びた緑の上に群がる白い花であること判つた。歌にしたいと考へたが名を知らない。同行の二人に問ふても二人とも知らないと云ふ。意地悪さうにK女史が『牧水時代でもあるまいし、名知らぬ花――などと歌へますまい』とからかふ。なる程と考へて歌ふのを斷念した。

また或る日のこと、妹の見――三つの女兒が甘へるまゝに手を引いて裏の畑に出た。子供は目ざとい。廻らぬ口で草むらの中の花を摘んで呉れとせがむ。見れば淡紫の穂の花で、繁茂する春草の緑の中にひそかに可愛らしく咲いてゐた。歌ひたいのだが粟谷の山の木のことを思ひ出してまた斷念した。

天長節の日に小學校の講堂に、圖らずも例の木の花が活けてあるのを見て、植物に造詣深い校長にとへばて曰く『ザイフリボク』又『ジデザクラ』と教へて呉れた。大いに感心して女史に摘んでやつた畑の花の名をとへば、實物を見なくては教師校舎の裏の田畦に同道した。

不幸にしてそこにその花がなかつた。序ながら、その附近にとり〳〵咲く雜草の美しさに、一つ一つ摘んで名を問へば知つてゐるものもあり、知らないのは植物圖鑑をしらべやうと言つて呉れた。その時ふつと思つた。斯うして一つ一つの名を聞いて、それを歌に詠つたところで、どうせ雜草の名である。誰かその歌を詠んでよく理解をして呉れやうか。植物學者ならさる多くの人には理解されない方が多からう。やはり歌には、雜草の花は單に『雜草の花』で結構のやうに考へられる。

つゝの目

○六月の日記はじめの小買物　つや女

△日比谷公園開園（明治三六）△日米海底電線竣工（明治三九）△立憲民政黨成る（昭和二）△滿獨通商協定實施（同一一）△近衛文麿公に組閣の大命降下（同一二）

6月1日

五月相聞

國玉喜輝

（上）

○田の面吹かれ鳴ける蛙をきゝて立つ五月の庭の夕風の冷え

○雨ぎらふからまつ山の木深きに啼ける郭公は人思はしむ

○甲斐もなき人を心に抱きつつ五月の雨の高原を越ゆ

○ほと〳〵に泣かまほしかるさびしさに疲れて雨の野を行きにけり

○疲れ來て高原の草を踏み居れば痛むがごとも人の戀しき

病床にて（終）

天久生

それにしても、この後氣配ひの幽微にいつまで戀々としてゐてはならない。折角、一生の苦闘を經て生涯の美の宗教を建設した芭蕉すら、死前『これもまた妄執である』とそれへの固着を拂拭してゐる。ここが芭蕉の偉いところで、彼にとつて美の宗教そのものは妄執ではない。固着することが妄執であるのだ。固着を妄執とすべきことそれ自体にでありうか。私はしかし或る場合には人間の持つてゐる狡猾から受ける態に愛のへの念々の拂拭に於て彼憐の感情を覺えてゐる。この生々した美の宗教はいよいよ、私の嫌惡にはいつまでも『上等の云々』といふ形容の詞がついて廻つてゐる。

そして近頃ひそかに私は私のこの嫌惡から開放されたいと念じてゐる。念じながら嫌惡の情火に身を焼いてゐる。

この私の嫌惡の深さは人間の持つてゐる狡猾の深さ、美の眞髓が示されてゐるのだ。美の宗教と概念するもの狡猾から受ける態に愛のへの念々の拂拭に於て彼憐の感情を覺えてゐる。この生々した美の宗教はいよいよ、私の嫌惡にはいつまでも『上等の云々』といふ形容の詞がついて廻つてゐる。

文章を批評する氣持は私には毛頭ない。芭蕉が死前『こゝらしい』

『執で』と

唐古川町長喪長女

珠雲　小野務平

内助承歡多令望
堅貞淑慈吐芬芳
昊天罪覓非耶是
一夕臨摧萬恨長

講談

隠密小天狗（35）

中川雨之氏作
近藤鐵氏畫

尾行中止

俊作に隠密を命じたのは、機宜に適したことだつたと今更のやうにしみ〳〵さう思ふのであつた。同時に、その俊作のことが、不圖心に懸つて來た。

『俊作は、正雪に會ひはしなかつたらうか』

『殊によると、樓門のあたりで、ばつたり出逢つたかも知れませぬ』

伊豆のかみは考へた。若し出會つたとすれば、忠彌も、あの中に交つて居たのだから、察ぐらゐはかけたかも知れぬ、或はそれが動機で巧く正雪に接近することができはしなかつたらうか。と。

あの樹立の中で、俊作の話がもう少し手間取つてゐたら、或ひは惡い處を正雪に入られたかも知れないとあの、編笠の――如何――ど思つ。さすがに冷汗が流れ出て來た。

『殿、まだ執念深く尾行て參りますが、如何致しませう』

『さうだのう。こゝらで追歸した方が、煩さくなくて宜いだらう』

『心得ました』

光之進は、伊づのかみの傍を離れて立ち留つた。その樣子は、ちやうど尾行して來た十兵衛の近づくのを待ち受けるものゝやうであつた。

伊づのかみは、振り向もしないで、水道橋の方へさつさつと行つてしまつた。

十兵衛はほり端の柳の樹を小楯に取つたまゝ、どうすることも出來なくなつた。そこで、少々體裁は悪かつたが、

『こいつは不可ない』

と見切をつけて、尾行中止。そのまゝ、森の茶屋へ逃げ戻つたのだつた。

『伊づのかみが、どうかしたのですか』

俊作は、正雪と間ひかけてみた。

『なあに。別に何でも無かつたのですが、最前、此處の鳥居前でお姿を見受けたものだから』

正雪、さすがに多くを言はなかつた。

俊作は、空とぼけた。

『鳥居前で――はゝあ。すけしたが、あれが有名な、松平伊づのかみ殿でしたか』

『殿、まだ執念深く尾行て參りますが、如何致しませう』

『さうだのう。こゝらで追歸した方が、煩さくなくて宜いだらう』

『心得ました』

光之進は、伊づのかみの傍を離れて立ち留つた。その樣子は、ちやうど尾行して來た十兵衛の近づくのを待ち受けるものゝやうであつた。

伊づのかみは、振り向もしないで、水道橋の方へさつさつと行つてしまつた。

十兵衛はほり端の柳の樹を小楯に取つたまゝ、どうすることも出來なくなつた。そこで、少々體裁は悪かつたが、

『こいつは不可ない』

と見切をつけて、尾行中止。そのまゝ、森の茶屋へ逃げ戻つたのだつた。

『伊づのかみが、どうかしたのですか』

俊作は、正雪と間ひかけてみた。

『なあに。別に何でも無かつたのですが、最前、此處の鳥居前でお姿を見受けたものだから』

正雪、さすがに多くを言はなかつた。

俊作は、空とぼけた。

『鳥居前で――はゝあ。すけしたが、あれが有名な、松平伊づのかみ殿でしたか』

伊づのかみを、全然しらはむまり冒險的でないか何思つた。若し此中に、自分と伊づのかみとの關係を知つてゐる者があつたら、とつもかも打ち壊したと思つた。

しかし、どうなれといふ袋、松平伊づのかみだ、貴公まだ御存じ無いと見えるのう』

と、云つたのは忠彌であつた。

忠彌でなく、正雪の口からその聲を聞きたい俊作であつた。

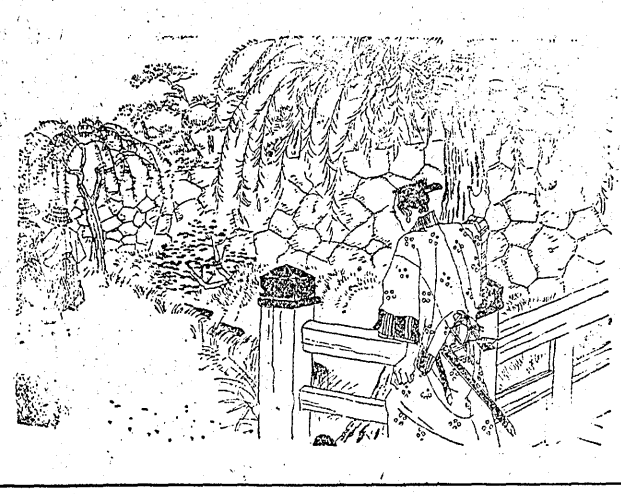
だが、正雪は、何ともいかなかつた。俊作は安心して宜いのか悪いのか、ちよつと、見當が付かなくなつた。

『戸田氏、これを御緣に、是非一度午込の邸へお遊びにおいで下さい。あなたのお手並を拜見したいものです』

と、正雪は、けろりとして見當違ひのことを言ひ出した。

『なんだか油斷のならない男だわい』

と、俊作、肚の裡に一層警戒をせられた。



今般副院長として高橋俊幸氏を招聘し『内臓外科・一般外科・皮膚泌尿器科』の診療に從事せしむ

平病院（平市元共濟病院）
電話六四一番
院主 醫學博士 鈴木定藏
院長

内科 院長 鈴木定藏
小兒科 部長 佐藤幾要司
内臓外科 副院長 高橋俊幸
一般外科
皮膚尿泌器科 部長 鈴木定藏
レントゲン科 技師 吉川元雄
物理的療法科
藥劑科 部長 吉本孝平

……診療時間……毎日午前八時ヨリ午後九時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

愛市報國

祝平市制一週年記念出賣

期間……來ル6月3日ヨリ5日マデ3日間

一、我等の公會堂建設献金として
一、出征軍軍慰問献金
◎賣出期間中御買上高の一部をお客樣の御芳名記入の上献納致します

◇當藥局獨得のサービス……金壹圓以上御買上の方に（但し化粧品は貳圓以上）

御家庭向實用品福袋進呈

◇オタノシミとして……福袋のうち幸運者は、東寶映畫聚樂館御招待券が當ります

◇戰地慰問の詰合藥あります

キハツ油「小賣」いたします

平市古鍛冶町一〇番地・電話四四番

阿康藥局
藥劑師 阿部康雄

◇衛生相談に應じます

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
内閣情報部發行
寫眞週報
（1部10セン）
…お取次致して居ります…
（平2）西村藥局（電3）

◎通勤女店員募集
一、高等小學卒業程度
一、市内居住の方
一、年齢十八歳……二十二歳迄の方
一、確實なる保證人を要す
御希望の方は履歴書持參ありたし、細詳面談
平マーケット
平市田町（電話七〇番）

今般開業
内科、小兒科
鈴木醫院
平市假治町八番地
（吉田屋呉服店西隣）
電話（呼）一、一〇

平市田町（電話五三一番）
高久病院
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
内科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
（看護婦至急募集）

お醫油は……ヤマフル
鹽屋
味噌醫油
たひら正宗
經師 食料品
山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
株式會社關彰商店平支店
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
茨城縣土浦町田宿 電話六五三番
茨城縣久慈町 電話一三七番
茨城縣多賀郡 電話一四七番
支店 關本驛前 電話五四番
福島縣四倉驛前 電話四八番
福島縣小名浜町
油槽所（常磐線泉驛前）
海岸給油所（大津港、平潟港、江名港、土浦町新國道日本石油給油所）
ガソリン給油所（電話八二番四）

初夏のハイキングに
パーマネント！
平市驛前（電話六七八番）
水野化粧院

海へ！山へ！

御子樣に……是非一臺
愛國飛行機
賣販で店玩具各
◀集募店賣販▶
橋本屋商店
平市新川町 電一六三

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

開業
内科、小兒科
鈴木醫院
平市假治町八番地
（吉田屋呉服店西隣）
電話（呼）一、一〇

新緑の
小瀧は招く
一日の清遊には……
どうぞ小瀧鑛泉へ！
西洋いちごが出盛つてゐます
猿の子が生れました
とても可愛でいます。
鐵道指定旅館
割烹 小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
一變せる勉强振りを、せひ一度お試を乞ふ
織田材木商店へ
福島縣平市 電話平四六〇番
營建築木材一式
業銘木・ベニヤ板
組秋田產杉四分板
目建具材・便利瓦

内科 外科 一般（入院隨意）
花柳病科
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

試驗地獄の緩和に
市立實科高女設置
一部識者が研究開始

市内所在男女中等學校は今春に於て少きも二倍三厘(磐中)多きは二倍二分六厘(平商)の多數志望者を算し其の入學難は逐年累加の傾向を辿りつつあるので之が緩和策たる學校の增設は永い間の懸案として識者間に論議され來つたが最近男子方面の計畫たる磯山學校に對し市立の實科女學校設置に關する研究が寄々一部に行はれてゐる。而して現在の市としては第五小學校、商業學校の新築等先決を要する市教育關係當面の重要問題があるので實現迄には勿論若干の時間はあるが、移轉後の平商校舍流用其他の便法を講ずれば人件費其他經費もさまで嵩まぬ見込が附いてるとのことで、此際決して現實と緣遠い一の理想では無く尚ほ之が爲め既存の私立各校に影響するでは無いかとの懸念も、ガソリン車が出來て自動車利用者が減らぬと同樣單なる杞憂に過ぎまい、と斯の道の消息通が語つてゐる

福榮　石坂銓太郎　多田弁笑郎　近藤ウメ　堀喜一　矢吹亀作

△備人＝見瀧又次郎　鈴木憂一　九里房保　川島直利　鈴木鶴次郎

鹿島でも　鹿島村でも明一日午後一時から小學校講堂に自治制發布記念式を擧げ自治功勞者、納稅完納者を表彰、物故功勞者の慰靈祭を執行

あす愛馬デー　あすは全國的の『愛馬の日』平市外二ケ村より成る軍用候補馬鍛練會では當日午後から縣社子鍬倉神社に前線で活躍してゐる軍馬の武運を祈願、同七時から平窪信用組合に石城產馬畜產組合三森技手を招き『馬の飼養管理について』と題する講演を聽く

功績今ぞ輝く
あす自治制記念表彰

自治制五十周年を記念する平市の式典は愈よ明一日午前九時奉告祭（縣社子鍬倉）同十時物故功勞者慰靈祭、同十一時表彰式（第一小學校講堂）の順序によつて擧行、市ではこの日吏員十七名を表彰自治功勞者八十六名に感謝狀を贈る。氏名左の如し

△市會議員＝井上茂作　松崎松治　野崎滿藏　萩原義雄　吉田五平　荒川淺次郎　矢吹初彌

△名譽職待遇者＝真木隆四郎　永山和平　酒井國三郎　新田目善次郎　櫛田榮太郎　諸橋國松　松本佐助　林桂次郎　小野久四郎　松崎銀之助　松本七兵衛　相田忠八

△行政區長＝鍋田三重　山崎孝之助　川角彙吉　木澤常松　酒井致之助　青木秀次　植頭龜松　神谷亥三雄　白土七太郎　松本愛三　吉田由三郎　花澤久一郎　鈴木惣五郎

△吏員＝西野源次郎　草野常彌　佐藤伊太郎　鈴木允　山野邊達卓　須藤鶴之助　江尻孝平　關場知一　松井深　佐藤昌訓　木村忠印　柴田道太郎

△前吏員＝伏見彥衛　大河原金之助　松崎由雄

△方面委員＝大森男

△學校職員＝平塚ムメ　先崎清　赤津千里　蛭田好一　中村政　藤田榮助　市原卯太郎　清水辰政

△前教員＝古關新吾　加藤直興　渡邊善吉　黑木リヤウ　小野金太郎　鈴木寶雄　長谷川政　橋本きし　蛭田イサ　海老原英　鮫島義雄

△前學務委員＝國府田一郎　吉野佐平太

△消防組＝岡田政治郎　鈴木彌太郎　三井富吉　田中宜治　涌井彙作　岡部治作　金成泉一郎　織田萬次郎　渡邊賢司　高萩盛男　菊田萬吉　大野松之助　古山吉之助　小野彙隆　吉田信也　黑木國一　加澤直隆　辻金太郎　岩本朝吉　大須賀義英

△納稅組合理管者＝馬目房次郎　織田豐太郎　風間鶴之助

小名濱と平を結ぶ大送電施設
近く使用認可されん

生命線をなすものとして注目されてゐる

三等局長會議　濱通店富士食堂綠川茂方出前持今野男(一九)は去る二十八日午前十時頃無斷家出、又田村郡御舘村久長男植田龜久家出。市内才槌小路飲食

偽電報で一稼ぎ(時局詐欺捕る)

平署では三十日夜宮城縣柴田郡槻木町上川名窃盜前科二犯佐藤義作(三八)を檢擧取調べてゐる

同人は昨年九月江名町中の作吉田清治方に雇はれ中主人に出征の偽電報を打つて餞別詐欺を動き最近に至つては小名濱町定西雜貨商長瀨弘方から狸一番(價格四百圓)を盜み出したがあまり暴られるので已むなくおつ殺してしまつた、この外自轉車泥數件を自白

夏井校學級增加　夏井村では明一日から一學級を增加すべく二十九日村會を開いて追加豫算三百五十圓を可決

農會技術員會議　郡下各村の農會技術員會議を來月六日午前十時から平國体農事務所に開き農事全般について協議

豐間村長詮衡會　豐間村では今三十一日午後一時から後任村長の詮衡協議會を開いた

斯んなこともあり記
小名濱商港後日物語＝(11)
赤井嶽男

最近の小名濱港は新興工業地として飛躍的發展をとげつゝあるが、今回大日本電力株式會社の建設にかゝる小名濱と平を結ぶ最大電壓六萬六千ボルトの大送電線が完成、近く使用認可の運びとなり、目下仙遞豐口電氣課長が檢査を急いでゐる

同送電線は今年中に出來上る小名濱の日本水素工業株式會社の工場熱利用の大火力發電所（一萬五千キロ）工事用電力と二本松電氣の供給改善のため當分五萬五千ボルトを使用、更に該火力發電所完成の曉には火力と大日本電力の水力發電所の經濟的運轉の連絡送電をなすもので、躍進小名濱の目下設立中の平海產商業組合製氷と握手

一年繰延べと揚言した手にいともふさはしい場面である小名濱町として、慥に地前只では引つ込まれぬ男のゆるが、その民政黨の爲めに所謂いろをつける高い繪いろをつけて貰つて小名濱意地から條件の何のと所謂の具の地元寄附增額五萬圓商港通過とは。諒闇あけが目前に迫つた歲末の縣會席

平海產商業組合製氷と握手
野崎氏ら斡旋妥協成立

目下設立中の平海產商業組合では組合の目的たる販賣統制の外附帶事業として製氷、冷凍を行ふ筈であつたが斯くては平製氷の事業と合致せずとの理由で縣商工課及び平魚市場社長野崎藏氏が斡旋し、平製氷專務松本一郎氏も立會ひ同組合計畫の附帶事業は擧げて鹿島製氷工業組合に代行せしむ事に圓滿決定したと

敵を追ひちらして前進目的地に達す
市内田町出身　小松四郎君(通信)

今度は御叮嚀な慰問品の數々御贈典下さる日は滅切り暑くなりました。れ難有厚く御併し皆樣の厚禮申上げます。御陰にて元氣です、何卒御安心下さい。實は早速御禮可申上處去る四月三十日突然命下り松江を出て上海の揚樹浦路に三泊致し其の間○○準備や方ならぬ喜びにて元氣百倍で珍らしきものを頂戴し一四日出發し船にて黃浦江を下り揚子江を遡り(略)天生港に參りました、此處にて一時○○○○○の指揮下に入り翌五日午後六時同所より一線に糧食運搬を警備し五日間の豫定にて出發致しました。處が途中六日午後二時頃約五百の敵より猛射を受け直に下船應戰し激戰三時間にして敵を追ひ散らし引續き前進致しました。處が再た復た七時三十分敵の陣地に舟を入れ之亦猛射を受け應戰二時間にして敵を追ひ討ち目的地に着いたのは七日、そこで歸舟の準備まで早々五月十一日（青沼市軍事後援會長宛）

中支の昨今は內地の盛夏を凌ぐ暑さです、ここ四五日は滅切り暑くなりました併し皆樣の心盡しにて益々厚禮申上げます。何卒御安心下さい。

私初め○除全員何かと不自由なる戰地にて珍らしきものを頂戴し一方ならぬ喜びにて元氣百倍致しました。一同よりも宜

八日午前六時同地を出發しました處が午前七時半また敵の射擊を受け朝霧を衝いて之に應戰し敵を追擊しつゝ船を進めました處が障碍物を以てクリークを斷ちあり、之が爲め非常なる困難を來しました途中一泊し無事任務を果し天生港に引揚げて參りました。翌る九日は午前六時彈藥輸送、ポン〳〵蒸汽六艘に繞き天生港を出發し、途中二回敵の襲擊を受け十日無事天生港に戻りました。右樣の次第にて寸暇無く延引致し何卒不悪御願ひ申します。先は御禮旁々近況一寸御通知迄ねばならぬ、と云ふので竟にせに腹は替られず涙をのんで之を引受けた小名濱町民の衷情こそ眞に同情を禁ずる能はざるものがある、五萬圓の才覺蓋し果して如何なる方法によらんとするか一難去つてまた一難小名濱の新らしい惱みは正に之れであつた。

×

小名濱商港問題に關し各方面へ運動のため早くから出張滯在中であつた小名濱町前縣議小野晉平、同町長鈴木榮、町會議員小野務平

一度び怪我人三名
道を往くにも御用心

通り合せた市內月見町箱崎德太郎(四一)さんは胸、同町箱崎達雄君(二六)は腰部に何れも二週間の傷を負つた、一つの事故で三人の負傷者を出したわけ

藤田榮助(四一)が自轉車にひつかゝり轉倒手足に

六月雨植田・梅暦

◇……『平市誕生』のあの歡呼の聲がまだ我々の耳朶に殘つてゐる程なのにもう丸一年。市ではこの日(一日)をトして午前八時から第一小學校に自治制發布五十周年記念式典を擧げ心から新興平市の前途を祝願する

◇……二日が舊端午の節句、夏空に躍る鯉幟の雄姿こそ無敵皇軍のときシンボルだ。十日時の記念日――戰時下の生活改善は先づ時の觀念からと例によつて正午の鳴物總動員に市民の注意を喚起する

◇……すく〳〵のびる稻の苗、田植が近づいて十一日が入梅、霪陶しい候に入る。日夜のながの雨に、心にもカビが生えさうな幾日かも來やう、二十二日が夏至夏服の用意も出來た『六月』は意よあすからだ

一日　平、好間で自治制發布記念式典

四日　けふからムシ歯豫防週間

七日　貨勞慶樹山の判決公判

十一日　木炭自動車平入り、講習會開催

十二日　磐陽野球第一日（於磐中球場）

十八日　九品寺農繁託兒所開設

審査、神谷村二毛作品評會を同日開き柴田技手審査

其他諸氏一行は夙夜懸念してゐたこと

評會を三十日開き青山技師

農事雜信　飯野村苗代品

聽く中陣を
(159)

一第質品
電話二六八番
平牛乳舍
平市・九品寺前

吸入用酸素
酸素
ヘルメット
ヘルメット
ヘルメット